

府高退教通信

NO.220

発行
〒543-0021

大阪市天王寺区東高津町七十一
府教育会館7F 大阪府高教内
大阪府立高等学校
退職教職員の会

TEL 06-6768-2106
FAX 06-6768-1675

子どもたちの「学ぶ権利」を奪う 「8高廃校案」は断じて許せない

府高教委員長 志摩 毅

災害続きの夏も終わり、秋らしい日が続く今日この頃、退職教職員のみならず、ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、この間の「高校つづし反対」のとりくみへの暖かいご支援・ご協力に、心より感謝申し上げます。

さて、府教委は8月30日に新たな「再編整備計画(案)」を発表し、「11月の教育委員会会議で決定する」としました。その内容は、中卒生の減少を口実に、今後5年間に、新たに「府立高校・大阪市立高校あわせて8校程度」を募集停止・廃校にするというものです。これは、「1学級40人」「1学年7クラス規模」を不動の前提として試算しているからであり、他都道府県ですすんでいる「35人学級」や全国平均の「1学年6クラス規模」で試算すれば、学校を減らす必要は全くありません。少子化のもとで折角生まれている教育条件改善のチャンスをつぶし、子どもたちの「学ぶ権利」を奪う「8校廃校」案は断じて許せません。

また、府教委は「今年度実施する」府教委はこの5年間に、すでに6つの府立高校(池田北・咲洲・西淀川・大正・柏原東・長野北)の募集停止・廃校を強行し、大阪府でも市立高校1校減(3校統廃合と1校新設)方針が強行されています。これ以上、道理のない高校つづしを許すわけにはいきません。「大阪の高校を守る会」が提起した府教委宛の署名(11月10日集約)に、ご協力をよろしくお願い申し上げます。(府高教委員長・大阪の高校を守る会事務局長 志摩毅)

秋の散策

「隠れキリシタンの里」を歩く

江戸時代から明治時代初期までキリスト教の信仰が禁じられた日本での「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されましたが、長崎・天草以外にも、茨木市北部山間部、千提寺・下音羽地区でも、ひそかに信仰を守った人たちがおり、その遺産が大正時代に発見されました。「聖フランシスコ・ザビエル像」が有名です。こうした遺産に触れ、棚田が広がる秋の風景を楽しみましょう。

日時：11月21日(水) 9時40分集合(時間厳守)

集合場所 JR 茨木駅改札出口

★大阪方面からの電車 大阪駅9時25分(快速・米原行)発→茨木駅9時38分着

★京都方面から電車 京都駅9時14分発(快速・姫路行)発→茨木駅9時36分着

行程：JR 茨木駅(阪急バス10時1分発)→下音羽バス停下車→高雲寺→寿命院→忍頂寺スポーツ公園・竜王山荘→キリシタン遺物資料館→寺山口(千提寺西遺跡遠望)→千提寺口バス停

持ち物：弁当、水筒、天候により雨具

その他：事前の申し込みは不要です。

天候が疑わしい場合は午前7時までに下記いずれかにお電話下さい。

連山 豊 072-941-8794 山上俊夫 06-6571-6295

笹岡優光 06-6613-0898 辻 清孝 072-453-5214

第212回「短歌を楽しむ会」(18・10・1)

参加者 四人。出稿は十人二十一首。カラスに食べられた高橋さんの梨は来年は網を掛けてこの会で食べようと先月誓いましたが、今月はぶどう畑で椋鳥を追い払い一日空き缶を叩く川上さんの姿をみんな楽しく思い浮かべていました。

谷畑を耕して十八年目ナガサキアゲハの雌に出会いつ 高橋貞雄

夥しき椋鳥追わむとぶどう畑に日がな一日空缶を叩く 川上憲一

夏告げるノウゼンカズラの朱の色に今日もがんばる勇氣もらいし 月岡秀夫

聖。パウロ悟りを開きステイブがスマホ発明シリアどこへ 池永 孝

なぜ云わぬ地震雷台風と我草屋の屋根が吹き飛ぶ 松田皓平

府教委は「諸般の事情」と言い放ち夜間高校の灯を消し去りぬ 五百蔵光彦

傘さして布団担いで子ども抱き働くママの月曜の朝 佐々木有馬

拷問を認め謝罪の仏政府を促したは市民の声か 福谷美智子

ぬちかじり平和の旗をうちたてん海空碧きアダンの木の島 鈴木晋司

九十二歳の先輩が「妹が孤独死した」と助け求め来 山尾邦子

次回第二二三回の「楽しむ会」は、十一月十二日(月)二時から教育会館ななめ向かいのガットネロで行います。歌稿は十一月五日(月)までに左記宛、ハガキ・FAX・メールなどでお送り下さい。
〒583-0024 藤井寺市藤井寺二丁目6-17 山尾邦子
tel・fax 072-954-8524 mail kunchan925@outlook.jp

携帯 090 9167 3031

沖縄知事選挙に参加して

末光章浩(大教組本部)

府高退教の代表として、デニー知事誕生に少しでも貢献できたことを大変嬉しく感じています。9月18日、23日間で実質4日間の行動でしたが、ハンドマイクによるスポット宣伝とビラ配布、個別訪問に電話による対話を目いっぱい行いました。

特に走行中の車からの温かい声援、人通りの少ない住宅街やマンション近くでトスポット宣伝をやっていると、窓を開け手を振る人、家から飛び出してきて握手を求めると、拍手する人など、こちらが逆に励まされる場面も多くありました。「これは勝てる！」しかし、相手は憲法・民主主義否定の安倍政権、SNS

による個人攻撃、事実無根のビラ配布、国家権力と金力による、業者・団体締め付けなど凄まじい攻撃。が、結果は8万票の大差をつけての勝利、最大の勝因は権力に絶対屈せず、辺野古に基地はつくらせないという沖縄県民と全国からの支援が強固な団結を生み、彼らを逆に追いつめたことです。辺野古視察では視察船の両側から警備会社と海上保安庁の船が「進入禁止区域だからすぐに帰れ」と威嚇する中、すべての工事がストップし、建設もたった6%完成しただけの護岸や海底の巨大サンゴを観望しました。今後は国が訴訟などあらゆる手を使って基地建設をすすめることは必至ですが、「基地はつくらせない」世論をもっと高め、安倍政権を退陣に追い込むことがいっそう重要との思いを強くしました。

